2025 すいせん図書
～本の森へ～

小学生

西東京市図書館

1・2年生

「やくそく－ぼくらはぜったい戦争しない－」　那須正幹 さく　武田美穂 え／ポプラ社

「にいちゃん、いってらっしゃい」、「にいちゃん、おかえり」。ばあちゃんは、毎日ぼくを「にいちゃん」とよぶ。ばあちゃんのにいさんの洋平さんは、1945年8月6日におとされた原爆で死んだ。たったひとりいきのこったばあちゃんは、かえってこないにいさんをずっとまっているのかもしれない。平和への願いがこめられた絵本です。

「『ぼくのおかあさん』2ねん1くみすぎしたげんき」　川之上英子・健 文　大島妙子 絵／アリス館

『きょうはじゅぎょうさんかんです。ぼくは、おかあさんについてのさくぶんをよみます。おかあさんは、しごとがおわってからがっこうにくるので、よみおわるまでにまにあうかしんぱいです。だから、ぼくはおかあさんのすごいところをたくさんかいて、ゆっくりよむことにしました。』こころがあたたかくなるお話です。

「山の学校キツネのとしょいいん」　葦原かも さく　高橋和枝 え／講談社

かえでさんは、深い山のふもとにある学校としょかんのししょです。あるひ、としょかんにキツネの子のリンがやってきました。リンは、としょいいんのピッピッとバーコードをよみとるおしごとをやってみたいというのです。かえでさんや学校のこどもたちといっしょにおしごとをがんばるリンにこころがあたたかくなります。

「まねをしました」　すずきみえ 作　下平けーすけ 絵／文研出版

図工の時間、ゆうまは絵の上手なハルトのまねをしてサメの絵をかきました。まねをしたのはゆうまなのに、クラスの友だちが「ハルトがゆうまのまねをした」とさわぎ出してしまいます。本当のことを言い出せず、ハルトにあやまろうとしたゆうまでしたが。

まねをしていいことといけないことは、どこがちがうのでしょう？

「となりのじいちゃんかんさつにっき」　ななもりさちこ 作　たまゑ 絵／理論社

なつやすみ、じぶんのあさがおをからしてしまったようたは、となりのいえのあさがおでかんさつにっきをつけることにした。となりのいえには、おじいさんとねこがくらしているが、このおじいさん、なんかあやしい。そこでようたはおじいさんのかんさつもはじめることにする。シゲじいとようた、ふたりのやりとりが楽しいお話です。

「パインさんのごちゃまぜかんばん」　レオナード・ケスラー さく　小宮由 やく／大日本図書

かんばんやのパインさんは、町ちょうさんのたのみで、じぶんのすむ町のすべてのかんばんをかきかえることになりました。ところが、かんばんをつけかえようとした朝、めがねがみつかりません。めがぼんやりしたまま、パインさんがつけかえたかんばんで、町中はたいへんなことになります。かんばんのたいせつさがわかります。

「いもうとなんかいらない」　ロイス・ダンカン 作　小宮由 訳　平澤朋子 絵／岩波書店

メアリー・ケイには、スザンヌという小さないもうとがいますが、いつもあそびのじゃまをするので、スザンヌをだれかにあげたいと考えます。そこである日、トゥルーディおばさんに、ペットのきんぎょといもうとをこうかんするていあんをしました。

かぞくのたいせつさがわかるお話です。

「こおりのせかいなんきょくへいこう」　国立極地研究所 監修／ひさかたチャイルド

「なんきょく」は、せかいいちさむいこおりのせかいです。にっぽんのふね「しらせ」は、たいいんたちをのせて、なんきょくへむかいます。たいいんたちは、なんきょくのしぜんとちきゅうのひみつをしるためのけんきゅうをしているのです。さて、なんきょくにはどんないきものがいて、どんなふしぎがおこっているのでしょうか？

リストにのっている本は図書館で
かしだし・よやくできます（こちらから）。

西東京市図書館
「2025 すいせん図書～本の森へ～」

3・4年生

「ロバのおはなし」　よしだるみ さく・え　ヨシダヒロシ 原案／国土社

せなかにたくさんのにもつをのせて、むらからむらへにもつをはこんでいるロバは、いつもとてもつかれていました。

そんなロバは、のんびりしているうしや、うま、いぬなどが、うらやましくてしかたありません。でも、うしからいわれたひとことが、ろばの考えをかえることとなります。

じぶんもふくめ、みんないろいろなことがあるということを知る絵本です。

「おかえりなさい、スノーマン」　マイケル・フォアマン ぶん・え　三辺律子 やく／あすなろ書房

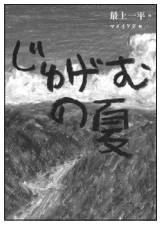
さむいふゆのゆうがた、こうえんのおくにこどもたちが作ったスノーマンが立っていました。コマドリが「やあ！スノーマンおかえり！」と言って、まちをあんないしてくれることになりました。スノーマンは「こおっていてうごけないよ」と言いますがちゃんとうごけました。なぜコマドリは「おかえり！」と言ったのでしょう。

スノーマンとコマドリがクリスマスのよるのまちをめぐる絵本です。

「いつかの約束1945」　山本悦子 作　平澤朋子 絵／岩崎書店

ある日、ゆきなとみくが出会ったのは、自分はおばあちゃんじゃない！と泣いているおばあちゃん。白いかみ、しわしわのはだ、声も「おばあちゃん」なのに、自分は関根すずという名前で九さい、急におばあちゃんになってたという。九さいのすずの心とおばあちゃんの心がいれかわったと思ったゆきなとみくは、元の体をさがすため、すずといっしょに町を歩きまわる。同い年の３人が過ごしたわすれられない夏の一日。

「じゅげむの夏」　最上一平 作　マメイケダ 絵／佼成出版社



落語家を目指す４年生のかっちゃんは、筋ジストロフィーという病気にかかっている。大きくなるにつれて、筋肉がだんだんやせていってしまうから、なるべくけがをしないようにと言われているのだけど、なんとこの夏休みまでに、天神橋から川へダイブをしたいとせんげんした！アキラ、山ちゃん、シューちゃん、かっちゃんの４人が、力を合わせて楽しい思い出をつくる、ひと夏のお話です。

「子ねずみウォルターはのんびりや」　マージョリー・フラック 作・絵　おびかゆうこ 訳／徳間書店

子ねずみのウォルターは、あきれるほどののんびりやです。家でも、学校でも、なにをするにも時間がかかってしまいます。家族にせかされても、しかられても、ウォルターにはききめがありません。そんなある日、ウォルターが学校からかえると家の中がからっぽになっていました。ねずみの家族たちはウォルターをわすれてひっこしてしまったのです。ウォルターの家族をさがす大ぼうけんがはじまりました。

「魔女がやってきた!」　マーガレット・マーヒー 作　尾崎愛子 訳　はたこうしろう 絵／徳間書店

魔女が出てくる短いお話を５つ集めた物語集です。男の子がお母さんといっしょにケーキを焼いていると、庭のサクラの木に魔女がやってきました。魔女はケーキをほしがってるようですが。(「サクラの木の上の魔女」)。くいしんぼうな魔女、ちゃっかりした魔女、やさしい魔女。あなたはどの魔女と友だちになってみたい？

「ひき石と24丁のとうふ」　大西暢夫 著／アリス館

岩手県のだれもいない山奥で豆腐屋を営むのは、90歳のミナおばあさん。ミナさんは目が不自由ですが、手で動かす道具だけで作るお豆腐にこだわり、昔と同じ味を今に残しています。朝早くからひき石で大豆をすりつぶし、１日にできあがるのは24丁のお豆腐。

ミナさんの働く、美しいすがたを伝える写真絵本です。

「科学絵本マツボックリの大変身！ リスのエビフライ探検帳」　飯田猛 著／技術評論社

森の小道で不思議なものを見つけました。これは何だろう。何かの木の実かな？それともだれかの落とし物かな？それはエビフライにそっくり！どうして森に落ちていたのかな？エビフライの正体はマツボックリ！リスがマツボックリをかじって、中に入っている種を食べていたのです。いろいろな生き物やマツボックリの種類もたくさんのっている写真絵本です。

リストにのっている本は図書館で
かしだし・よやくできます(こちらから)。

西東京市図書館
「2025 すいせん図書～本の森へ～」

5・6年生

「せんそうがおわるまで、あと２分」　ジャック・ゴールドスティン 作　長友恵子 訳／合同出版

ジュールとジムは、同じ日に同じ町で生まれた大切な友達です。２分先に生まれたジムは、足も速いし強いので、どんなときも先頭でした。ある日ヨーロッパで戦争がはじまり、ふたりも戦場で戦うことにしました。しかし、いよいよ戦争がおわるという時間の２分前、先頭にいたジムはジュールの目の前でうたれて死んでしまいます。

２分という時間の大切さを感じ、平和な世界を願いたくなる絵本です。

「風花、推してまいる!」　黒川裕子 作　タカハシノブユキ 絵／岩崎書店

村野成里は、小学校六年生。三ナシ（無事・無難・無風）をモットーに卒業まで何事もなく学校に通うのが最大・唯一の目標だった。そんな成里のクラスに転校生がやってくる。名前は若宮紫寿、大衆演劇＜劇団風花＞一座の息子で、むらさきという名で舞台にも出ていた。

紫寿と出会い、大衆演劇を観に行くようになった成里は、すっかりその世界にはまり、考え方も変わっていく。

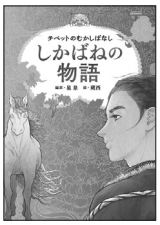
「推し活も楽しいな」と思わせてくれるお話です。

「おおなわ跳びません」　赤羽じゅんこ 作　マコカワイ 絵／静山社

五年二組の学級会で、左足にハンディをもつ双葉はおおなわ大会には出ないと宣言した。「理由はうちが出ると、五年二組は勝てないからです」。いろいろな意見が出る中、まわす係をすすめられた双葉は次の日から学校に来なくなった。悩む双葉とクラスメイトそれぞれの視点にうつり変わりながら、物語はすすむ。

年に一度のおおなわ大会、みんなが納得できる方法はあるのかな？

「しかばねの物語－チベットのむかしばなし－」　星泉 編訳　蔵西 絵／のら書店



手に入れることができれば、世界中の人々をしあわせにすることができるという、特別なしかばね。ただし、そのしかばねを背負い、歩き続ける旅のあいだ、ひと言も口をきいてはいけない。デチュー・サンボは、山と谷をこえた先の墓場から、しかばねを背負い、哲学者の竜樹大師の元へ向かう。ひと言も話さないデチュー・サンボに、おしゃべりなしかばねは物語を話し始めた。しかばねの奇想天外な物語が楽しい一冊。

「図書館がくれた宝物」　ケイト・アルバス 作　櫛田理絵 訳／徳間書店

第二次世界大戦が始まったロンドンで、ウィリアムとエドマンド、アンナの3人兄弟は、おばあさんの葬式に参列した。唯一の保護者を亡くし途方に暮れていた3人は、弁護士から学童疎開で保護者となる「後見人」を見つけるように勧められ、田舎に行くこととなった。疎開先では厳しい生活を過ごすが、図書館との出会いが3人の転機となっていく。困難なことに負けない、兄弟の勇気にわくわくする物語。

「カルディコット・プレイスの子どもたち」　ノエル・ストレトフィールド 作　尾崎愛子 訳／偕成社

60年ほど前のロンドンのお話です。お父さんが事故にあい、ジョンストン家の幸せな生活は変わってしまいました。そんな時、ひょんなことから末っ子のティムが貴族の老婦人から田舎の古い屋敷＜カルディコット・プレイス＞を相続することになりました。慣れない田舎生活のなかでいろいろな事件が起こります。

古い屋敷で、まわりの自然や人々と新たな暮らしを築いていく家族の物語です。

「火山はめざめる」　はぎわらふぐ 作　早川由紀夫 監修／福音館書店

浅間山は「火山」です。火山はふだんはねむっていて、ときどきめをさまして噴火します。この絵本では、昭和時代、江戸時代、平安時代、２万5000年前、それぞれの時代の噴火のようすをえがいています。火口からふきだす噴煙、山はだをながれる溶岩、何日もふりつづく軽石。

この本の見どころは火山の様子だけではありません。各ページにえがかれた、それぞれの時代に生きるひとびとを、ぜひ見つけてみてください。

「こちら、沖縄美ら海水族館動物健康管理室。－世界一の治療をチームで目指す－」

岩貞るみこ 文　サタケシュンスケ イラスト／講談社

沖縄美ら海水族館の「動物健康管理室」では、獣医師や動物看護師、検査担当、飼育員が１つのチームとなって、毎日水族館の生き物の健康を管理しています。尾びれをなくしたイルカをもう一度泳がせたい！とても大きなジンベエザメに月に一度の血液検査！？けがしたヒブダイのうろこをはさみとメスで手術！？生まれたばかりのマナティーの子育てをみんなで応援！水族館の裏側もよくわかる、７つのお話です。

リストにのっている本は図書館で
かしだし・よやくできます（こちらから）。

西東京市図書館
「2025 すいせん図書～本の森へ～」